

育成を目指す資質・能力

(知識及び技能) 幅跳びの楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、短い助走から踏み切って跳ぶこと。

(思考力,判断力,表現力等) 自己の能力に適した課題を見付け、動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。

(学びに向かう力,人間性等) 幅跳びに進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。

ICT活用のポイント

追究する場面において、ペアで互いの動きを動画で撮影し、自分の動きを確認することで、前時までの自分の動きとの比較や本時のめあてに対する達成度等を視覚的に捉えることができるようにする。

【つかむ】

前時の振り返りや既習事項を想起し、学習の見通しをもつ。

リズムよく力強く踏み切り、
フワッと高く跳び出そう！
膝は柔らかく曲げて、んの字で着地しよう！

【追究する】

課題解決のための練習に取り組み、練習の成果を測るため、ペアで互いの動きを動画で撮影し、自分の動きを確認する。

【まとめる】

本時の振り返りを行い、各自の振り返りを全体で共有する。

事例の概要

1. ウォーミングアップと準備。(ランニング3周、準備体操、動物遊び)
2. 本時の学習課題をつかみ、追究の見通しをもつ。
・・・既習事項を確認し、本時のめあてを児童の言葉で引き出した。
3. 課題解決の見通しをもち、練習する。
 - ① 「ん」の字を意識した着地練習。(3歩跳び)
 - ② 高く跳ぶことを意識した練習。(ゴム跳び)
4. ペアで互いの動きを動画で撮影し、自分の動きを確認する。
5. 学習のまとめをし、本時の振り返りを行う。

【事例におけるICT活用の場面①】

- 動画撮影機能を用いて、本時の練習の成果として、ペアで互いの動きを撮影する。

【事例におけるICT活用の場面②】

- 学習支援ソフトを用いて、本時の振り返りを入力し、全体で共有する。

【事例におけるICT活用の場面①】



写真1

本時の練習の成果としての試技をペアで協力して、1回撮影した。

本時における動画撮影を1回のみにしたことで、ウォーミングアップから主運動である「幅跳び」の練習時間と運動量が十分に確保されていた。練習やペアでの撮影の際には、周りの児童からは「トン・ギュー・バーン」といった掛け声が聞かれ、「『ん』の着地になってたよ！」など、ペア同士でアドバイスし合う様子も見られた。

【事例におけるICT活用の場面②】

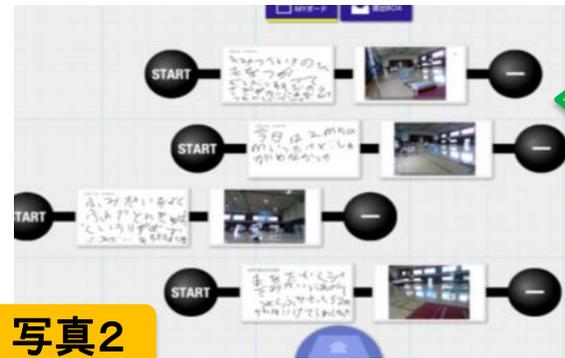


写真2

意図的指名により、児童の振り返りを紹介し、続けて、児童の動きの動画を大型モニターを使って、全体で共有した。

本時の練習の成果として撮影した自分の動きを確認し、手書き入力で本時の振り返りを記入した。その振り返りシートと本時の自分の動きの動画を紐付け、毎時間蓄積していた。



写真3

『ひみつへいきのひもを使って、動物遊びの「うさぎ」みたいに手をあげて高くとべた。』といった児童の振り返りからも、児童は、ウォーミングアップで行った動物遊びの「うさぎ」の動きを想起し、本時のめあてでもある「高くとぶ」ことを意識して練習に取り組んだことがわかる。授業の流れや「トン・ギュー・バーン」といったリズム、「ん」の形で着地など、児童にもわかりやすく、自らの成果を実感できる学習内容となっていた。加えて、本時の振り返りと動きの動画をセットにし、全体で交流することで、より活発な意見が出され、新たな視点や次時のめあてに気付くことができた。

【活用したソフトや機能】

・動画撮影機能 ・学習支援ソフト

中学年の幅跳びの助走に関しては、「短い助走から」とされており、体育館で実施する場合は、児童の体力や技能、用具等に十分配慮し、安全に気を付けながら実施することとする。